

目次

序
目次

前編 梵字の変遷

● 一 インドにおける文字の変遷 十五

 インダス文字 十五

 古代インドアーリヤ民族と文字 十六

 仏教教団の文字撰取 十七

 仏典に見える文字の種類 十九

 アショーカ王の碑文 二二

 アショーカ王碑文ブラーフミー文字の起源 二四

 文字配列の方向 二七

 アショーカ王碑文ブラーフミー文字の書体 二九

 グプタ文字 四〇

 樺樹皮と貝葉 四九

 悉曇文字と法隆寺貝葉 五三

 グプタ文字以後のブラーフミー文字の変遷 五七

● 二 中国における梵字の変遷 五九

- 旧訳時代の概観 五九
- 旧訳時代の八悉曇 六一
- 唐義浄の『梵語千字文』 六六
- 純密経軌の伝訳と梵字 六九
- 諸種の悉曇章 七一
- 『悉曇字記』その他 七五
- 『仏説楞伽経禅門悉曇章』その他 八〇
- 種々の梵漢対照語彙集 八二
- 唐土に行われていた悉曇文字の例 八四
- 北宋時代訳経の原本の文字 八七
- 『景祐天竺字源』と宋代の梵字 九一
- 中国周辺諸民族の新字創成と梵字 九六
- 元明時代の梵字 一〇〇
- 清代の梵字と『同文韻統』 一〇六
- 海東の梵字 一一〇

● 三 日本における梵字の研鑽 一一八

- 上代の梵字資料 一一八
- 伝教大師と梵字 一二〇
- 弘法大師の悉曇学創始 一二二

- 日本梵字学の確立 一二五
- 鎌倉時代以降の伝承 一二〇
- 江戸時代の梵学新展開 一三二
- 梵字の普及 一四〇
- 四 インド古代文字学の成立 一四六

後編 悉曇の解説

● 一 悉曇の読み方と字義 一五五

- 概観 一五五
- 悉曇字母の分類 一五六
- 悉曇文字の伝承的読み方 一五八
- 悉曇字母の発音 一六〇
- 悉曇連声 一六四
- 五十字門と四十二字門 一六七
- 密教所伝の字義 一七二

● 二 悉曇の形態 一七七

- 日本悉曇学の実態 一七七
- 悉曇文字の復元とその資料 一七九
- 悉曇文字の諸形態 一八一

| | |
|-----------|-----|
| 誤伝の異形文字 | 一八四 |
| 訂正悉曇字母の提示 | 一八七 |
| 重子音字 | 一九七 |

● 三 梵字真言集 二〇〇

| | |
|---------------|-----|
| 真言の語義 | 二〇〇 |
| 真言中の慣用句 | 二〇二 |
| 両部真言 | 二〇六 |
| 光明真言 | 二〇七 |
| 発菩提心および三昧耶戒真言 | 二〇八 |
| 十三仏真言 | 二一〇 |
| 阿弥陀如来根本陀羅尼 | 二二二 |
| 大金刚輪陀羅尼 | 二二五 |
| 金刚百字明 | 二二七 |
| 十三仏種子 | 二三〇 |

● 四 梵字般若心經 二二二

あとがき

索引

ブックデザイン — A・D 〓 島津義晴・D 〓 大久保友博 + O U T